

横浜市立大学に現役最年少、31 歳の教授が誕生！

横浜市立大学では、現・医学部臓器再生医学准教授 武部 貴則（たけべ たかのり）氏を平成 30 年 1 月 15 日付で、先端医科学研究センター担当教授に任命しました。これにより、横浜市立大学の現役の教授において、最年少の教授が誕生しました。

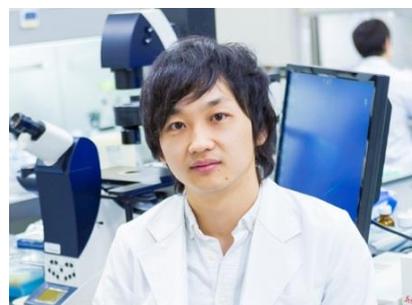
当該教員はこれまで数々の優れた研究成果を上げ、国内外からも高く評価されるなど、本学のプレゼンス向上に大きく貢献してきました。こうした実績を評価するとともに、そのアクティビティを後押しするため、本学の附置研究所である先端医科学研究センターの教授に任命したものです。今後、本学の「強み」である再生医学はもちろんのこと、より幅広い分野での研究の展開が期待されます。

1 氏名 武部 貴則（たけべ たかのり）

2 年齢 31 歳 （昭和 61 年 12 月生まれ）

3 略歴

- ・平成 23 年 3 月 横浜市立大学医学部卒業
 - ・平成 23 年 4 月 横浜市立大学臓器再生医学助手
 - ・平成 25 年 11 月 横浜市立大学臓器再生医学准教授
 - ・平成 27 年 12 月 シンシナティ小児病院 消化器部門発生生物学部門 准教授(※)
 - ・平成 29 年 4 月 シンシナティ小児病院幹細胞・オルガノイド医学センター 副センター長(※)
- ※クロスアポイントメント制度適用
クロスアポイントメント制度とは、本学以外の機関の身分を保有し、一定のエフォート（研究等にかかる時間の配分）管理の下で、それぞれの機関における役割に応じて研究・開発および教育に従事することを可能とする制度



4 これまでの業績

平成 25 年に iPS 細胞から世界で初めて血管構造を持つヒト肝臓原基（肝芽）を創り出すことに成功したことを皮切りに、平成 26 年には肝芽の最適な培養方法・移植手法を見出しました。平成 27 年には様々なミニ臓器を創り出す手法を確立し、昨年には、「ミニ肝臓」の大量製造に成功しました。これらの成果は、Nature をはじめとする国際主要論文に掲載されただけでなく「ベルツ賞」（平成 26 年度）や「文部科学大臣表彰若手科学賞」（平成 28 年度）、「日本医療研究開発対象 AMED 理事長賞」（平成 29 年度）等を受賞。国内外からも高く評価されています。

再生医学における最先端の研究を進める一方で、独創的な取組として「広告医学」という新しい学問領域を普及させることにも注力。デザインやコピーライティングなどの広告的視点を医療現場におけるコミュニケーションツールとして活用することで、人々の健康行動の自然な動機づけに繋げようというもので、駅や建物での「健康階段」、メタボ対策の「アラートパンツ」等は、横浜市健康施策にも活用されるなど、横浜市民の新たな健康づくりとして注目を集めています。

また、最近では、IT 大手系列会社と iPS 細胞を活用した「非アルコール性脂肪肝疾患」治療の共同研究を進めていくことが決まっています。

お問い合わせ先

人事(教授任命)に関すること	医学・病院統括部 職員課長	市川 雅啓 Tel 045-787-2810
研究業績に関すること	研究推進部 研究企画・産学連携推進課長	渡邊 誠 Tel 045-787-2510

※顔写真データが必要な場合は、koho@yokohama-cu.ac.jp (広報室) までご連絡ください。